

○三重大学工学部規程

(平成16年4月1日規程第479号)

改正 平成19年3月30日規程 平成20年3月31日規程
平成22年3月31日規程 平成27年3月31日規程第479号

(趣旨)

第1条 三重大学工学部(以下「学部」という。)に関する事項は、法令及び国立大学法人三重大学学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(目的)

第1条の2 工学部は、基礎的研究とともに社会の変革に対応した応用的研究の成果に基づいた教育を行うことにより、学ぶことへの興味と目的意識をはぐくむと共に、広範な基礎的学力、問題解決能力をもつ創造力豊かな人材を養成し、地域・国際社会に貢献することを目的とする。

(学科の目的)

第1条の3 機械工学科は、機械工学分野を核とする広範な知識と技術を教育及び研究し、人間・環境・機械の調和的発展に貢献しうる創造性が豊かで社会性の高い個性的人材を育成することを目的とする。

2 電気電子工学科は、電気電子工学に関する基礎と応用に関する教育研究を行うことにより、多面的理解力、倫理的判断力、知的創造力を備えた専門的技術者及び研究者を育成し、地域・社会に貢献することを目的とする。

3 分子素材工学科は、化学を基軸とする徹底した基礎教育、専門教育を通して、分子設計化学・生物機能工学・素材化学の観点から専門的な学術研究を行うことにより、次世代材料創成を目指した分子科学に携わる技術者、研究者を育成し、地域・国際社会に貢献することを目的とする。

4 建築学科は、地域から地球規模に至る環境及び社会のニーズを踏まえた総合的見地から、建築・都市の専門分野における学術研究を行うとともに、想像力豊かな建築活動を担う人材の育成を行い、学問・文化と地域・社会の発展に貢献することを目的とする。

5 情報工学科は、国際標準のカリキュラムの下で、適切な教育を行い、国際標準に達した学力を有する人材を育成すると共に、最新の知識を授け、実践力を高める教育研究を通して、社会の第一線で持続的に活躍できる人材を育成し、地域・国際社会に貢献することを目的とする。

6 物理工学科は、工学の基礎となる物理学と機械工学・電気電子工学を融合させた幅広い教育研究を行うことにより、物理学に通じ、機械・電気電子工学に長けた、学際的で創造力豊かな技術者・研究者を育成し、学問・文化の発展と地域社会に貢献することを目的とする。

(授業科目、単位及び履修方法)

第2条 学部の授業科目を、教養教育科目及び専門教育科目に区分する。

2 前項の授業科目名並びに必修、選択の別、単位数及び履修方法等は別に定める。

(授業時間割)

第3条 毎学期の授業時間割及び担当大学教員は、学期始めに告示する。

(履修科目の願出及び卒業研究)

第4条 工学部学生(以下「学生」という。)は、毎学期の始めにその学期に履修しようとする科目を所定の手続により、申告しなければならない。

2 前項の申告は、受講学生数又は時間割の都合上、その変更を命ぜられることがある。

3 卒業研究は、各学科で定める条件を満たしていないときは、これを履修することができない。

(他学科又は他学部における科目の履修)

第5条 学生で、他学科又は他学部の科目の履修を希望するときは、他学科の場合は担当大学教員の、他学部の場合は工学部長(以下「学部長」という。)を経て当該学部長の許可を得なければならない。

2 前項の科目及び履修単位は工学部教授会(以下「教授会」という。)が適当と認めた場合は選択科目として取り扱うことができる。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第6条 学則第67条の規定により、学生が他の大学又は短期大学において、当該大学の授業科目を履修しようとする場合は、学部長を経て、学長に願い出なければならない。

2 前項の規定により願い出があった場合は、教授会の議を経て許可することができる。

3 前2項の規定により履修し、修得した単位は、教授会の議を経て、60単位(学則第68条に規定する学修及び第69条に規定する認定による単位を含む。)を超えない範囲で、卒業の要件となる単位として認めることができる。

(考查、試験及び成績)

第7条 授業科目(卒業研究を除く。)の成績考查は、試験の成績及び履修の状況によって行う。

第8条 試験は、前期後期に各1回定期に行う。ただし、必要に応じ、臨時に行うことがある。

2 試験の科目、日時その他必要な事項は、あらかじめ告示する。

第9条 成績は10点満点をもって表わし6点以上を合格とする。

第10条 定期試験に病気、その他止むを得ない理由のため、欠席した場合は願い出により教授会の議を経て当該科目の追試験を課することができる。

第11条 卒業研究の成績考查は、卒業論文(卒業計画を含む。以下同じ。)及び口述試験によって行う。

第12条 卒業論文は、担当大学教員の指導を受けて作成し、その審査を受けるものとする。

第13条 卒業研究の成績は、AA, A, B, C, Dの評語をもって表し、C以上は合格とする。

(課程の修了)

第14条 本学に修業年限以上在学し、学部所定の授業科目を履修し、所定の単位数を修得した者について、学部長は、教授会の議を経て、所定の課程を修了したことを認め、学長に上申する。

(3年次編入学)

第15条 学則第46条の各号のいずれかに該当する者につき、3年次編入学試験を行い、教授会の議を経て入学を許可する。

2 3年次編入学に関する規程は別に定める。

(再入学、編入学、転学部及び転学科)

第16条 当該学科に欠員のある場合は、学則第47条第1項の各号のいずれかに該当する者につき、再入学及び編入学試験を行い、教授会の議を経て相当年次に入学を許可することがある。

2 本学部学生で転学部又は転学科を希望する者は、願い出によりこれを許可されることがある。転学部及び転学科に関し必要な事項は、別に定める。

(留学)

第17条 学生で、外国の大学又は短期大学に留学を志願する場合は、第6条の規定を準用する。

2 前項の留学期間は、学則第33条の修業年限に含まれるものとする。

(科目等履修生)

第18条 科目等履修生の入学資格は、教授会が、当該授業科目を履修するに十分な学力があると認めた者とする。

第19条 科目等履修生が1学期に出願できる履修科目の総単位数は、10単位以内とする。

第20条 科目等履修生の在学期間は、履修科目について授業の行われる期間とする。

(特別聴講学生)

第21条 他の大学又は短期大学の学生で、本学部の授業科目を履修しようとする者があるときは、学則第102条の規定により、当該の大学又は短期大学との協議に基づき、教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生の入学時期は、聴講科目が開始される学期の始めとする。

(研究生)

第22条 研究生の入学資格は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学卒業者
- (2) 短期大学卒業者
- (3) 高等専門学校卒業者
- (4) その他教授会が適当と認めた者

第23条 研究生の研究期間は、1年とする。ただし、指導大学教員が必要と認めた場合は、教授会の議を経て、研究期間を継続することができる。

2 前項の規定にかかわらず、国費外国人留学生の研究期間については、奨学金支給期間とする。

第24条 研究生の研究課題及び指導大学教員は、当該学生の希望を参考として教授会の議を経て学部長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日規程)

- 1 この規程は、平成19年4月1日より施行する。
- 2 平成18年度以前の入学者については、改正後の規程第13条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成20年3月31日規程)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成22年3月31日規程)

- 1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 平成21年度以前の入学者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成27年3月31日規程第479号)

- 1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 平成26年度以前の入学者については、改正後の規程第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。